

東京帝國大學經濟學部內 東亞經濟研究所

年四回(二月、五月、八月、十一月)發行

東亞經濟叢論

第貳卷 第一號

昭和十七年三月

特輯 南方經濟號

南方經濟の基本問題……………	經濟學博士	谷口吉彦
最近佛領印度支那幣制に於ける二つの改革……………	經濟學博士	松岡孝兒
比島資源價値の進展……………	經濟學士	淺香末起
ビルマの資源と産業と貿易……………	……………	大場忠
インドの農產資源……………	文學士	岡崎三郎
濠洲經濟事情……………	……………	宮崎亮
農業投資植民地としての蘭領インド……………	經濟學士	北博
印度支那におけるフランスの經濟政策……………	經濟學士	河野健二
日本經濟と南洋貿易……………	經濟學士	松井清
南方纖維原料の生産について……………	經濟學士	岡部利良
南方ゴム資源と其の對策……………	經濟學博士	谷口吉彦
南方資源論……………	經濟學博士	蜷川虎三

附錄 南方文獻目錄

書肆 有斐閣 發賣

濠洲經濟事情

宮崎亮

- 一 概観
- 二 農業
 - a 小麦
 - b 雜糧
 - c 畜産
 - d 果實
- 三 牧業
 - 羊、その他
- 四 鑛業
 - 金、石炭、銅、鐵、鉛、錫
- 五 第二次世界大戰と濠洲の經濟

一 概観

濠洲の産業は普通第一次と第二次とにわけて考へられる。第一次産業には農業、牧畜、鑛業、漁業、林業等を含め、第二次産業には工業―製造工業が編入される。第一次産業は濠洲の國民經濟に於て第二次産業より、より重要な役割を演じ、恐慌以前の十年間、即ち一九二〇―三〇年に於ては、濠洲の全生産物の價額の六七％は第一

次産業の生産物が占め、三三%が工業の分であつた。が、この比重は世界不況及び一九三一年の金融恐慌以後次第に變つて來た。我々は今その過程を詳細にわたつて分析する事はできないが、濠洲は一九三一年にその國民經濟を根本的に修正する事を餘儀なくされたのである。此は濠洲の歴史に於ける旋廻基點をなすものであるが、その多岐に亘る複雑な變遷のモメントのうち、尠くも左の三つの因子はより根本的なものであらう。即ち、第一に濠洲は、若い國の例に洩れず外國資本によつて發達して來た國である。然も、その非常に多くの部分が、私債ではなく公債によつて占められてゐるので、在外公債（その五二パーセントは一九三〇年に於てロンドンにあつた。）に對する利拂ひの爲に常に十分な外國爲替の手持ちを準備してゐなければならぬ。濠洲の貿易が多額の輸出超過を常に示し、ロンドンに於て新公債（一九二〇年から一九二九年まで平均して年三千萬磅）を發行し得るなら、この利拂ひも濠洲の國際收支のバランスを甚しく壓迫する事はなかつたであらうが、一九三一年に於けるロンドン市場の萎縮、これと同時にこつた外國貿易の崩潰等の事情は、濠洲がその債務に對して支拂ふ可き外國爲替の入手を困難にした。第二に濠洲は、羊毛、小麥、肉、酪農業生産品、果實等の若干の第一次産業の生産品の輸出を主要輸品としてゐたので、農產品の値下りとか國際貿易に於けるその輸出入額の減少——此が、かの世界經濟不況を特徴づける傾向であつた——に際しては非常に打撃を蒙るのであつた。濠洲に於ける相對的に高い生活程度——此は部分的には外債によつて賄はれる公共事業や廣汎な社會立法の上に立つてゐる——は、英本國その他に於ける有利な商品市場の保持を條件として維持され得るものである。第三に、濠洲は、この第一次産業から第二産業への漸進的移行にあたつて、この新興の産業のために保護關稅を設定した。これは英、米等の輸出業者に反感

を以て迎へられたのであつた。

一九三一年の國際收支勘定に於ける極度の逼迫に照應する爲、濠洲は根本的な改革を斷行した。此はインフレイションの政策とデフレイションの政策とを併用するものであり、又、保守的な有産階級の利益と賃銀労働者階級の其との妥協を要請するものであつた。その結果、又一般的な世界經濟の回復と豐作のため、濠洲は不況の痛手をかなりな程度まで回復する事ができたのである。ある部門に於ては第二次世界大戰勃發に先行する數ヶ年中には未曾有の「繁榮」さへ見られたのであつた。一九三一年以後のロンドンに於ける起債公債は殆んどなく、然も濠洲に於ける新投資額は不斷に増大したのであつた。この傾向の結果は全公債額に於ける濠洲保有公債の著しい増加に現はれてゐる。(第一表参照)

第二次産業は濠洲經濟に於てたえずその重要さを加へて來、第二次世界大戰の勃發にあつては、全生産額の殆んど半ばを占むるに到つた事は第二表の示す如くである。

かゝる工業化への傾向にもかゝはらず、全體として歴史的に觀察する場合、特にその貿易を検討する場合、濠洲は第一次産業にその重點を見出し

第一表 濠洲在外公債と國內保有公債

6月30日を終 期とする年度	濠洲保有 (濠磅)	ロンドン保有 (英磅)	ニューヨーク 保有 (英磅)	計 (帳簿價值)
1930	526,968,664	525,785,833	47,842,701	1,100,597,198
1940	750,763,366	546,496,159	43,794,719	1,134,154,244
	利		子	
1930	27,769,323	25,185,900	2,410,898	55,366,121
1940	27,013,811	18,346,598	2,196,624	47,557,033

第二表 濠洲全生産物物價額（百萬濠磅）

6月30日を 終期とする 一ケ年	農 業	牧 畜	酪農家畜 蜜 蜂	林 業	山 業	工 業	計
1934	70.7	95.6	40.3	9.6	17.6	123.4	357.2
1938	93.2	100.8	57.6	14.8	32.4	188.1	486.9
1939	76.8	84.9	60.4	14.6	32.5	195.7	465.0

濠洲經濟事情

第二卷 一五〇 第一號 一五〇

てゐる事は注意されなければならぬ。戰時經濟下の今日に於て、この事は深刻な「矛盾」として機能し、現代の濠洲の經濟上の問題は、かゝる矛盾を中心に展開し、然も、其が結局濠洲の脆弱點の一因子となつてゐる。かゝる矛盾が如何に展開するかはおそらく近き將來の歴史が此を一層、明瞭に、現實化するであらう。

二 農 業

各主要農業生産物の作地面積、生産量等を第三表・第四表に示す。

a 小 麥

以下第五表に明らかなる如く、小麥の作地面積は全作地面積の六二%をこえ、その生産量も最も多く、世界の主要小麥生産國の一つをなし、一九三二—三六年の生産量の平均は世界總生産額の三・五三%をしめ、又、世界小麥總貿易量の一・八八パーセントは濠洲の占める所である。小麥は此を主食とする殆んど何れの國にも生産されるが、國內生産量と消費量とが完全に、又恒久的にバランスのとれる國は殆んどない。そのため小麥は國際貿易に於て特種な地位をしめる。

小麥の生産地帯で最も廣大な又最主要的な所は最大降雨量が作物の成長する季節に、即ち冬期及び春期にある地帯である。かゝる地域には西部及び南部濠洲の小

第三表 作 地 面 積 (エーカ)

	穀 物			秣	甘 蔗	計
	小 麥	燕 麥	玉 蜀 黍			
1934—35	12,544,178	1,561,553	294,981	3,173,173	322,457	20,438,799
1935—36	11,956,966	1,564,171	297,616	3,007,470	334,910	19,974,042
1936—37	12,316,862	1,524,861	317,710	3,100,878	359,107	20,602,595
1937—38	13,734,951	1,408,422	320,207	2,982,465	358,187	21,951,731
1938—39	14,346,380	1,784,205	324,146	3,250,260	368,429	23,509,034
1939—40	13,283,425	—	—	—	374,653	—
1919—28年 の 平 均	9,750,000	974,000	315,000	2,998,000	229,000	

第四表 農 産 物 全 生 産 量

	穀 物			秣	甘 蔗	甘 蔗 糖
	小 麥	燕 麥	玉 蜀 黍			
1934—35	133,393,232 ブツシエル	16,906,022 ブツシエル	8,100,827 ブツシエル	3,810,708 トン	4,493,804 トン	640,589 トン
1935—36	144,217,769	18,720,774	7,467,705	3,497,647	4,500,907	646,541
1936—37	151,389,952	16,662,279	7,246,383	3,447,647	5,445,740	782,834
1937—38	187,255,673	17,165,061	6,816,612	3,423,753	5,494,610	810,319
1938—39	155,363,621	15,554,735	7,050,642	3,321,161	5,678,894	821,086
1939—40	210,283,681	—	—	—	6,313,369	928,667
1919—1928 の 平 均	118,905,000	14,221,000	8,251,000	3,606,000	—	332,000

第五表 作地面積比例 (1937—38)

	ニュー・ サウス・ ウェールズ	ヴィク トリヤ	クイーン スラ ンド	南濠洲	西 部 濠 洲	タスマ ニヤ	北部	主 部 特別區	全濠洲
小 麥	69.00	57.61	23.04	66.75	72.03	8.26		36.49	62.57
燕 麥	11.74	23.14	4.55	11.87	10.29	28.62		48.52	13.58
馬 糧	3.94	8.46	0.48	7.02	9.19	12.71		2.63	6.41
大 麥	9.87	2.61	27.28	3.05	6.39	9.70		7.85	7.47
甘 蔗	0.18	3.00	0.53	8.68	1.07	3.64		0.12	2.85
玉 蜀黍	0.32	—	20.84	—	—	—		—	1.63
果 樹園	1.93	0.45	10.76	—	—	—		0.23	1.46
馬鈴薯	1.35	1.61	1.92	0.63	0.52	12.41		—	1.26
葡萄園	0.34	0.88	0.84	0.09	0.10	12.72	3.10	1.74	0.52
その他	0.26	0.90	0.17	1.21	0.15	—	—	0.60	0.60
計	1.07	1.34	9.59	0.70	0.26	11.94	96.90	1.82	1.65
	100	100	100	100	100	100	100	100	100

濠洲經濟事情

第六表 小麥及小麥粉の濠洲よりの輸出量

	小 麥	小 麥 粉	計
1934—35	75,959,690	33,502,608	109,462,298
1935—36	76,993,133	29,619,888	106,613,021
1936—37	71,778,020	27,109,344	98,887,364
1937—38	94,503,757	30,262,608	124,766,365
1938—39	63,352,445	34,831,200	98,182,472

第二卷 一五二 第一號 一五二

麥生産地帯及びニュー・サウス・ウェルスの南部地帯が包含される。かゝる廣大なる地域については斷定的な事は云へないが、原則として、一年の降雨量が約十二吋以下の所ならいゝのであつて、あとは作物の生長する季節の雨の量とその分布とに總てが、かゝつてゐるのである。

作地面積(第三表参照)が毎年増減する理由には當局の政策も勿論重要な因子であるが、他の理由としては、非常に實況な農作地域にわたつて小麥の作地に羊が飼養されてゐ、その更代が非常にフレキシブルだからである。小麥がいゝとなれば農民は容易にその耕地面積を倍にする事ができる。然もその場合、土地の豐饒性といふ見地からみての更代の「能率」には決してひどい影響はないのである。肉とか羊毛とかの價格が高いとか、農家の家計を特に苦しめるやうな事情がなかつたり或は小麥の價格が下落すれば耕地面積は減じるのを常とする。

豐作のために必須な條件は、第一に秋或は初冬に撒付けられた種子が生長するに十分な雨量があるかどうかといふ事である。第二に作物を收穫までもたすに十分な春期の降雨量である。八月及び九月に於ける降水量も收穫に決定的な影響を與へる。西部豪洲地帯は他の地帯より、より確實なこの降雨現象が見られるが、收穫が完了するにはあまりに早く雨が終つて了ふのである。

此等の地域では十二月から二月までの季節は普通乾燥してゐるし又暑いので、header (禾穀の穂を切り取る器具) や收穫・打穀兼用の機具を使用し得る許りでなく、この作業過程をのばす事ができるので、急に特別な勞働力を必要とする事もなく、農具も比較的長期間もつのである。氣候の諸條件は一般に細菌の發生には全く不良なのであるが、“foot-rots”とか“take-all”とかの名で知られてゐる植物の病氣はある。

第七表 小麦：濠洲よりの輸出量（ブツシエル）

輸 出 先 國	1909年— 13年平均	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
英 本 國	30,305,384	45,531,319	41,198,166	46,776,749	44,244,213	61,522,285
印 度	a	280,120	168,697	486,535	200	734,572
エ イ ア	a	3,959,445	2,622,852	4,744,435	5,698,955	1,102,370
南アフリカ聯邦	2,992,355	39,472	21,027	326,905	2,777	954,908
その他の英領地	a	404,546	438,727	1,446,725	957,367	4,507,005
白 耳 義	1,218,131	37,180	253,920	2,428,838	612,773	162,378
支 那	a	1,476,012	13,663,894	5,052,790	1,272,500	143,663
エ チ プ ト	135,377	203,760	1,605,768	562	30,045	490,548
フ ラ ン ス	1,681,918	—	—	40,613	775,791	3,875,697
ド イ ツ	286,822	—	—	—	797,100	—
伊 太 利	581,309	699,225	18,838	1,736,663	10,166,855	3,837,228
日 本	330,131	7,720,350	15,530,335	11,043,610	2,507,307	2,844,940
そ の 他 の 國	4,465,847	1,247,350	437,466	2,909,408	4,712,137	14,418,163
計	41,997,274	61,598,528	75,959,690	76,993,133	71,778,020	94,503,757

濠洲經濟事情

第八表 麥粉：濠洲よりの輸出（トン）

輸 出 先 國	1909—13 年平均	1933—34	1934—35	1935—36	1936—37	1937—38
英 本 國	27,699	136,677	99,332	130,998	177,329	187,943
セ、イ、ロ、ン	3,389	18,893	18,821	17,090	16,210	14,305
香 港	2,672	27,663	50,616	44,382	40,503	66,291
マ、レ、イ（英領）	15,492	50,834	61,926	55,592	66,596	65,464
南アフリカ聯邦	30,714	436	371	545	208	273
その他の英領地	(a)	61,490	46,158	60,314	65,758	76,623
支 那	(a)	79,261	814	951	2,113	31,544
エ チ プ ト	(a)	27,766	26,864	23,722	35,005	18,674
滿洲（關東州ヲ含ム）	(a)	—	240,181	112,789	9,442	11,941
蘭 領 印 度	26,099	80,623	82,147	82,077	74,928	83,079
フイリツピン	13, 80	10,998	27,437	40,491	34,522	27,280
そ の 他 の 國	47,367	47,851	43,304	48,130	41,184	47,054
計	167,112	542,492	697,971	617,081	564,778	630,471

第二卷 一五四 第一號 一五四

夏に雨がふる地域内の北方小麦地帯はその意義は前者に劣り、この裡には南東ノースランドのダーリング・ダウンス高原や北部ニュー・サウス・ウェルスの一部が編入される。勿論この地帯と前述の地帯とを判然と區別する線があるわけではない。この地帯では收穫量がその前年の夏に降つた雨で土壤の中に貯へられてゐた雨水のもつ湿度に依存する場合さへあるのである。この地下水は作物の生育及びその早期の成長には十分であるが、作物を完全に成育せしむるには冬期に屢々俄雨がなければならぬので、收穫量と六月の降雨量との間には緊密な相關關係があるのである。濕潤期に入る前、十一月に作物は刈りとられる。この地帯の難點は冬期の俄雨の不確實性、刈入れの困難、雨が早くから降つたり、雨量が多かつたりする場合に、收穫の作業を早急にしなければならぬ事、又、春期の濕潤な年度に「銹菌」が発生し易い事等々である。

第三の地域はタスマニア及びヴィクトリアの高地地帯である。こゝでは降雨現象がより分散的に見られ、比較的複雑な收穫機具は使用されない。その結果、耕地面積は最近年度に於て減じてゐる。

第九表は一エーカー當りの小麦の生産量を示してゐるが、濠洲の生産力は甚だ低い事がわかる。此には色々な理由が考へられるのであるが、例へば農業經營の規模が餘りに大きすぎると云ふ事も考へられる。又、濠洲の作地面積の中には、小麦を作つたのは始めてであつて、數年經過しないと好作が期待できぬやうな土地も算入されてゐる。濠洲でもヴィクトリア洲のヴィンメラ區などでは伊太利と略同じ生産力を示してゐる。土壤の可成りな部分が「黒土」型の地域は非常に興味がある。即ち、かゝる發達の起因は農民が、多くの場合、その經驗から出發して、「作物」や、「土地」や、「氣候」やに就て、より多くの知識を保持した事にあるのである。最初に農民は

第九表 諸國に於ける一エーカー當り小麥生産量（ブッシェル）

國名	一エーカー當り小麥 平均收穫量		國名	一エーカー當り小麥 平均收穫量	
	1935-37 平均	1938		1935-37 平均	1938
デンマーク	42.83	52.17	土耳其	14.49	16.86
和蘭	42.68	47.16	ブラジル	14.19	14.39
白耳義	37.49	46.86	ルーマニア	14.11	19.27
エイア	33.75	34.07	アルゼンチン	13.44	15.32
瑞典	33.70	39.77	ギリシヤ	13.10	16.86
ニューゼランド	33.45	32.49	シリヤ	13.07	16.54
獨逸	32.71	38.06			
瑞西	32.18	34.44	北米合衆國	12.93	13.26
英本國	32.05	37.84	滿洲	12.77	12.81
エジプト	30.90	31.25	濠洲	12.74	10.86
ノールエー	30.77	30.40	ソ聯	12.53	12.37
日本	28.41	25.46	ポルトガル	12.49	13.31
フィンランド	25.28	27.40	スペイン	12.23	〃
チツコスロバキヤ	24.96	〃	朝鮮	11.74	12.31
伊太利	21.21	23.93	ウルガイ	11.74	11.39
フランス	20.54	27.64	コロンビヤ	10.95	10.12
ハンガリ	20.30	24.16	印度	10.77	11.29
ブルガリヤ	19.60	22.90	メキシコ	9.68	8.81
ラトビヤ	18.04	20.26	カナダ	9.25	13.50
ポーランド	17.39	18.37	アルヂュニヤ	7.60	8.52
リトワニヤ	16.96	18.43	チュニシヤ	7.51	11.80
コーゴスラビヤ	16.63	21.16	パレスチナ	7.47	8.39
イラン	15.91	15.91			
チリ	15.72	16.08	南アフリカ聯邦	7.29	8.36
支那	15.70	〃	イラク	5.95	6.56
エストニヤ	15.38	18.25	佛領モロッコ	4.66	7.39

過磷酸肥料が絶対に必要である事を知るに到つた。次に、特に「黒土」に照應する農具の型と耕作の方法とが發明された。次に、この地域により適合した作物の變種が作られるに到つたのである。

降雨の缺如。

天候の不定性こそは濠洲小麥生産業の全體を決定する。勿論何れの國にあつても農民が天候に依存してゐる事は同じであるが、濠洲の場合には生産量の變化が雨の有無に直接起因するのである。

一年の雨量が約二十吋より尠いときには休閒が必要となる。もし此をやらないと收穫量が著しく減じるからである。この現象は色々に説明されてゐるが未だ決定的な定説はないやうである。

濠洲小麥の質に就て。

濠洲小麥の特點は、これを粉にしたときその色が白色である事で、此はある程度まで市場で有利な點である。蓋し、他の有力な小麥輸出國の小麥にはかゝる特色がないからである。「ベイク」する場合の質は中間的な價値をもつものと云へやう。即ち、北アメリカの小麥のやうに「腰の強い」ものでもなく、又一方、北歐の多くの地域の小麥のやうな「腰の弱い」ものより遙かに良質のものだからである。タスマニヤの小麥やヴィクトリアの比較的雨の多い地區の小麥は「腰の弱い」ものである事が、その量は非常に尠いのでこの地方のビスケットをつくるのに消費されて了ふ。一般的に穀粒よく實つて秋の霜や錆菌やが害を與へるやうな所でできる小麥のやうに縮んで了つてゐるやうな事はない。かゝる性質のため、濠洲の小麥は販賣にあたつて、他國でやるやうに多くの等級に區別するやうな事はしない。

多くの洲では一つの袋に三ブツシエルをいれて販賣されるのが普通である。併しニュー・サウス・ウェルスでは洲が金融して大量に取扱ふシステムが行はれてゐる。

b 酪 農 業

酪農業經營區域

クイーンランド洲では酪農業の經營區域の末端は北緯一六度にあるデイントリー河 (Daintree River) で、又此が最も盛んに行はれる所はブリスベインの近邊の海岸地方とダーリング・ダウンス (Darling Downs) の高原とアサートン (Atherton) の高原 (tableland) である。(第十表参照)

ニュー・サウス・ウェルス洲では最も盛んに酪農業の營まれてゐる地域は Dividing Range の東側の傾斜と、この洲の北半にある、所謂「北方河川區域」である。こゝでは多くの河川が稍々平坦な溪谷を形成させてゐるのである。こゝでも又夏期が最も雨量の多い區域なのである。他の可成り重要な區域は南部の海岸やシドニーの近邊に散在してゐ、此等の區域は降雨量が一年中比較的平均して配分されてゐる。ヴィクトリヤ洲に於ても、二つの主要酪農區域は山嶽と海との間にあつて、東の區域は南方ギップスランドで、これの競争區域は西部區域の玄武岩高原である。この二つの區域は俱に雨量が一年中に配分されてゐ、冬期に最大多の降雨量が見られる。猶、グールバアン (Goulburn Valley) 溪谷の灌漑區域にも酪農業は非常な進歩を示してゐる。ニュー・サウス・ウェルス洲でもヴィクトリヤ洲でも酪農業は若干高原に接する比較的乾燥した區域にも行はれてゐる。此等の區域のうちのあるものゝ裡には、酪農業は羊毛生産や小麥農業がよりよく了解され、又より有利となる以前から確立されて

第十表 主要酪農業生産物(ボンド)

十二月三十日	ニュー・サウス・ウェールズ	ヴィクトリア	クイーンズランド	南 洋 洲	西 洋 洲	タスマニア	北 部	首都特別区
バ タ ー								
1934—35	146,106,328	147,651,179	133,624,597	18,513,229	13,308,003	10,689,043	15,086	469,907,465
1935—36	125,169,296	148,132,507	115,910,415	20,964,305	12,918,745	10,613,358	13,849	433,722,475
1936—37	109,830,751	154,769,391	87,474,757	20,892,369	12,360,924	10,918,278	15,223	396,261,693
1937—38	120,882,732	141,321,445	118,244,260	22,428,298	15,373,334	11,997,323	14,218	430,261,610
1938—39	118,820,717	130,573,918	157,625,746	20,716,584	16,244,449	11,835,500	17,415	455,834,329
1939—40(a)	116,019,857	166,733,642	142,796,649	22,677,890	15,991,069	11,698,467	15,507	475,933,081

チ ー ス								
1934—35	8,445,468	10,095,139	12,192,383	6,649,661	643,571	1,948,963		39,975,185
1935—36	7,356,203	10,973,804	9,149,283	8,103,663	865,482	2,150,281		38,598,716
1936—37	7,417,640	13,351,124	7,789,890	12,164,819	1,002,139	2,994,227		44,728,839
1937—38	8,004,873	16,466,038	11,963,445	15,516,879	885,418	3,770,189		56,606,842
1938—39	7,485,907	19,554,061	15,768,543	18,457,598	980,254	3,399,626		65,645,989
1939—40(a)	(b)	24,199,047	13,847,677	20,796,342	1,051,896	(b)		70,560,000

パイコン及ハム								
1934—35	19,667,619	16,334,018	21,751,444	6,497,111	4,730,504	2,022,717	1,250	71,004,663
1935—36	22,057,458	18,165,168	23,198,346	6,783,216	5,465,098	1,984,722	1,170	77,655,178
1936—37	22,069,860	17,571,792	20,229,728	7,573,620	4,098,448	2,132,464	1,151	73,677,063
1937—38	21,374,691	16,696,404	19,607,223	6,196,378	4,010,446	2,454,528	520	70,340,190
1938—39	26,418,687	16,510,137	19,021,752	5,987,363	4,242,083	2,273,601	340	74,453,963

ゐたのである。長期にわたる乾燥期の裡にあつて、酪農業生産物の質と量とを保持して行く事は勿論非常に困難な事なのである。南濠洲に於ては長い乾燥した夏期の爲、酪農は困難であつて、南海岸の比較的不毛な區域及びムーレイ河の沼澤地及灌漑地に若干營まれてゐるだけで、あまり進歩してはゐないのである。

西部濠洲に於てはその南西端に酪農園を設けてゐるに止まり、こゝでも夏期の乾燥せることゝ土地の不毛な爲、この産業の進歩は阻害されてゐる。

都市に牛乳を供給する區域を別とすれば、バターを製造する事に主力がそゝがれてゐるのであるが、この爲にクリームが工場によつて集められる。工場の多くは協同組合式に經營されてゐる。チエグー・チーズも多量に生産される。この種、チーズはクイーンズランド洲に最も多く生産されてゐる。ある種のチーズはできないのであるが溫度が高い爲と云はれてゐる。濠洲でのチーズの消費量は一人當四ポンドと云はれてゐるが、此は非常に低いが、肉が比較的低廉なことがその理由であらう。バターとチーズの間には競争があり、兩者の生産はある區域に於ては副業的に營まれてゐるからである。コンデンス・ミルク、乾燥ミルク、ラクトーゼ、乾酪素、等は多くの區域で生産されてゐる。

生産量の變動

濠洲の酪農生産に於ける著しい特徴はシーズンによつてその生産量が甚しく變動する事である。これは主として若干の酪農區域に於ける降量の變動性によるのである。又この傾向を一層著しくしてゐるのは酪農を營むものが、牛をかふのにパドックの中の草を食はせるだけで人手のかゝつた飼料を與へる事は殆んどない事である。

酪農業は濠洲では多少とも賤しい職業とされてゐる。これはある程度までこの産業のもつ單調な性質から來るのであつて、行動と事業とに大きな娯びを見る人々には訴へないからである。勿論、此は一見些末な事に思はれるが、農民が酪農をやめて小麥や羊の飼養をやる傾向が各所に見られた事があつたが、この理由はかゝる心理的な事象にその起因があつたのである。又、酪農業の經營される地方では若干保守的な傾向があるのもこの原因によるのかも知れない。とまれ、酪農業は多くの點に於て改善の餘地ある産業である。

酪農業の決定要因

概括的に見て酪農業の經營區域は二つのクラスにわけられる。即ち、第一のは北方グループであつて、この中では雨量が主として夏期にあり、第二のグループは冬期乃至春期に雨の多い區域である。この二つの場合に於て全く異種の牧草が、従つて又、おそらく全く相違した牧場經營が行はなければならない事は自明の事である。更に、各グループ内に於て、平均の雨量の相違につれて、牧場の型と經營とが異つてくる事が要請される。酪農業が能率的に經營される爲には、その土地の牧草だけで十分ではない場合が多いし、又、牧草を他から移植して成功するには日中の長さとか又氣候への適應性とか重要な條件となる事を思へばこの問題の意義は自ら明らかとなるであらう。

多くの地域に於ける鑛物の、主として磷鑛の不足はこの酪農業の進歩を阻害してゐる。南方の酪農地域に於ては過磷酸鹽を敷肥する必要が一般に認められて來てゐるが、北方では此はあまり問題となつてゐず、一般にも行はれてゐない。

直接旱魃に原因する場合は別として、濠洲酪農業の家畜の棲息條件は甚だ良好である。タスマニアやヴィクトリアの高原地帯や南部ニュー・サウス・ウェルスやに於てのみ冬の寒さに對して牛を守つてやらなければならぬ場合があるだけである。殆んど一年中戸外の放牧が可能なのである。日光の量の多い事は周知の如くであるが、病氣も、ある種の傳染病の他には殆んどない。結核病は特に南部の地域に發生する。ヴィクトリア州ではその發生を減少する爲に強制屠殺及賠償制度を施行してゐるが成功を治めてゐる。クイーンズランド及び北部からの牛の移動に併ひ——肉をとる爲——肋膜、肺炎がもたらせられたが檢疫その他の手段によつて多くの區域に此は波及してゐない。(第十一表參照)

牛一匹當のバタの產出量がデンマークなどに比較して尠いのは飼料が秣一本建の事によると云はれる。

羊毛、肉、小麥、酪農生産品の他にも濠洲には數多くの田園産業があり、中には若干の成功を示してゐるものもある。濠洲のどこかに生育し得ないやうな植物は殆んどないので、殆んどすべての作物はこゝで試験されてゐる。外國市場からの距離は常に大きな難點となり、ある場合に此は全く克服し難い困難となる。以前には保護關稅が自由に設定されたので國內市場が最も有利とされたのであるが、輸出されるやうになり始め廳らくの間は成功してゐるのであるが、政府から獎勵金を要求したり、又は下付されてゐた獎勵金が停止されたりして、結局遂に失敗に終つた例は非常に多い。

大麥は家畜をかふのに適合した多くの種類のものが小麥生産地帯の多くの地域に生育する。最も高く評價され

第十一表 主 要 家 畜 数 (b) 未修正 (c) 未発表

	ニュー・サウス・ウェールズ	ヴィクトリア	クイーンズランド	南 濠 洲	西 濠 洲	タスマニア	北 部	首都特別區	計
羊									
1934	53,327,000	16,733,611	21,574,182	7,884,919	11,197,156	2,038,450	23,356	219,343	113,048,037
1935	51,936,000	17,457,291	18,060,093	7,945,745	11,082,972	2,139,900	25,483	228,317	108,875,801
1936	53,166,010	17,633,103	20,011,749	7,905,112	9,007,535	2,233,655	11,162	244,378	110,242,704
1937	51,563,181	18,863,467	22,497,970	8,904,402	8,732,076	2,520,950	26,856	263,616	113,372,518
1938	48,876,663	17,007,352	23,153,559	9,936,586	9,177,531	2,625,690	29,901	245,540	111,057,832
1939(b)	54,372,472	18,251,870	23,500,000	9,940,570	9,574,232	2,500,000	38,587	259,408	118,436,139
牛									
1934	3,482,831	2,085,080	6,052,641	346,429	911,940	261,588	899,679	8,433	14,048,671
1935	3,388,538	2,091,246	6,033,014	335,354	882,761	270,035	900,535	10,186	13,911,659
1936	3,288,169	2,015,759	5,950,572	328,013	792,508	261,597	855,398	9,856	13,491,872
1937	3,019,581	1,880,429	5,959,165	324,163	740,241	254,812	891,640	8,325	13,078,356
1938	2,811,884	1,697,295	6,097,089	318,897	767,680	262,497	899,472	7,057	12,861,781
1939(b)	2,762,653	1,787,597	6,125,000	351,013	810,170	(c)	922,581	5,879	(c)
馬									
1934	534,853	357,877	447,804	198,765	161,636	30,662	35,094	1,067	1,767,758
1935	542,862	365,106	441,075	197,368	160,181	30,626	35,152	1,060	1,764,430
1936	545,829	357,158	440,568	200,870	155,177	30,971	31,056	1,121	1,762,750
1937	528,625	359,106	445,916	197,334	151,067	31,578	31,662	1,225	1,746,513
1938	531,355	343,828	444,521	195,834	143,674	30,458	33,191	1,195	1,724,056
1939(b)	534,837	326,217	445,000	190,013	138,211	(c)	32,721	1,241	(c)
豚									
1934	397,535	265,006	269,873	86,297	97,997	40,291	626	649	1,158,274
1935	436,944	314,301	304,888	93,458	93,026	45,169	555	629	1,293,964
1936	390,780	318,673	290,855	85,048	76,451	40,021	470	454	1,202,752
1937	356,765	285,259	282,941	66,647	64,598	43,067	388	417	1,100,082
1938	377,344	252,462	325,326	71,292	82,922	45,317	355	573	1,155,591
1939(b)	451,064	297,655	350,000	119,660	147,916	(c)	483	601	(c)

るマルチング型の大麥は、收穫季節に乾燥してゐる所ではよく生育しないのであるが、適當な種類のものをつくれば空氣が比較的濕つてゐる海岸地方では生育するのである。この種の大麥は夏期の暑さをさけられるやうに早く熟すものであつて、今まで成功したものは濠洲産のものである。最近に於ける輸出は四百八十萬ブッシェルに達してゐる。玉蜀黍とか、らい麥も相當にできるが、世界市場の注目を惹くに到つてゐない。燕麥はアルゼンチンヤ型が最も多く植付けられてゐる、タスマニヤその他では白色燕麥がよい收穫を擧げてゐる。馬鈴薯、米、等もとれ、米が濠洲に耕作されるに到つたのは比較的最近の事で、ニュー・サウス・ウェルス洲のムルムビデー (Murrumbidgee) の灌漑區域がその主要な生産地で、カリフォルニア種が用ひられてゐる。灌漑の爲に多量の水が入用なので、生産量を著しく増加する事は困難であらう。

甘蔗は北部ニュー・サウス・ウェルスの海岸地域にそふ河邊の低地やクイーンズランドでは既に昔から栽培されてゐた。最初は黒人勞働が使役されたのであつたが、「白濠主義」の原則に従つて此が禁止されてから、この産業は政府から色々な形態に於ける補助金を受けるやうになつたのである。此と戰時（第一次歐洲戰爭）に於ける砂糖不足に刺戟されて、甘蔗栽培區域はより北方に擴大され、一九二四—二九年の間の年度には、毎年の輸出が一四一、〇〇〇トンに達し、一九三七—八年には、四二七、一八四トンとなつた。

d 果 實

果實は各洲にできるが、暑さの爲貯藏ができないので輸出は主として南方區域からのみ行はれる。林檎の輸出が比較的成功してゐるのは他國からのものが未だ市場に出ないうちに（五月—六月）、歐洲の市場に到達する事が

できるからである。梨は林檎よりも輸送が困難で、その輸出の成功は危険率が多い。

シトラス（蜜柑屬）の植付面積は一九三〇年頃から非常に擴大し、濠洲で此は自給自足してゐる。歐洲の市場に就て見れば南アフリカは濠洲の強敵である。

乾燥果實や罐詰果實の生産も戦後十年のうちに盛んになり、前者に就ては政府が援助してゐる。

葡萄はムレイ河灌漑區域によく成育し、葡萄酒製造は古くから行はれてゐる。種類が非常に多く輸出市場も確立されてゐる。

三 牧 業

羊毛飼育を制限する要因

羊毛飼育を制限する要因は數多くあるが、第一に多量の雨は "flood"、その他の病氣の原因となる。此等の病氣の多くは寄生虫がたかる所からおこるのである。この要因は狭い範圍にきり活きないが、丁度かゝる地域内にはかゝる要因がなかつたら最も多くの羊が飼育されるやうな所となつてゐるのである。高い溫度が制限の要因として機能するのは北半の地域内であつて、グリフィス・テイラーに據れば、華氏七十五度以上の平均溫度地域は羊の飼育には適しないのである。

給水が困難な場合があり、この場合には水を求めて一番周知な方法が取られるに到つた。即ち、廣大な地域に亘つて穿孔器が掘りさげられ、堀抜井戸數は四千に達し、此等のうちには四千呎の深さのものもある。種々の排

6月30日 終期年度	ニユー・サウス・ウェールズ	ヴィクトリア	クイーンズランド	西部濠洲	南濠洲	タスマニア	北部	計
1935	496,876,887	156,761,979	174,088,413	77,250,933	95,836,161	14,035,000	35,000	1,015,424,372
1936	474,359,226	163,397,896	142,793,328	81,709,440	92,458,673	16,300,000	35,000	971,053,563
1937	505,375,065	163,048,510	153,766,368	76,604,296	69,935,210	14,067,000	35,000	982,831,449
1938	496,824,150	178,890,131	174,751,280	86,666,388	70,684,855	15,598,500	35,000	1,023,390,304
1939	439,049,939	165,829,182	179,458,589	102,868,121	78,802,143	17,519,000	35,000	983,581,974
1940(c)	548,467,161	185,000,000	190,000,000	105,000,000	81,000,000	18,000,000	35,000	1,127,522,161

水設備が用ひられ羊の飼養が小麦の栽培と並行して行はれてゐるヴィクトリア州の北西部では大規模の水路ができてゐて、其が一萬平方哩をカヴァしてゐるのである。此等水路は一年に一回農場のダムを充す水をもたらす。グレート・ヌラボーア高原 (Great Nullabor Plain) のやうにボーリングをやつても駄目な所もあるし、又費用がかゝりすぎる所もあり、土地の性質が排水を妨げてゐる所もある。羊が歩行するのに地形があまりにラフな地域もある。牛だけがかゝる所での牧養にたえるのである。森林に蔽はれた山嶽地方や北方はかゝる地域である。牧草の性質が動物の繁殖に不適な所もよくあつて、其は沙漠乃至半沙漠的な所が此であると見てよい。又ある區域に於ては交通手段の不足が重大な缺點となつてゐる。雨の多い所では生産量も非常に少く鐵道も儲からないので生産品の運送費が制限要因となつてゐるのである。

牧農業の歴史はこれを営む區域の減少が何度もあるた事を示してゐる。現在羊の数は一億一千萬匹をこえてゐる。

るが、濠洲一人につき十六匹位にあたる。一八九一年に既に一億匹をこえてゐたのであつたが、其が一九〇二年にはその半分に減じてゐるのである。メリノ種の羊の生産では濠洲は世界全生産の九〇%をしめ、輸出に毎年出す三百萬袋のうち五分の四以上はこのメリノ種である。一九三七年の七月に終る年度に於て羊毛の輸出額は最近年度の最大額に達したのであつたが、六千六百萬磅に達したのである。濠洲の羊の全數の半はニュー・サウス・ウェルスに集中してゐる。(第十一表・第十二表参照)。

羊 肉

食用にする羊は英國種の羊と交配するのであるが、これを行ふと羊毛の性質が變つて來るので、みだりに此は行はれない。併し羊肉及仔羊肉の生産は、牧農兼行の區域では常に行はれてゐるのでその輸出量も相當の額にのぼる。この點ではニュー・デールランドが競争相手であつて、こゝの方が氣候の條件がよいので着々と濠洲の分野を犯してゐる。

牛 肉

食用の牛の飼養は、羊の飼養のできない地域か又は酪農業が確立されてゐない地域に行はれる。かゝる地域は山嶽地方か北方にある。この産業は非常に不利な條件の下に幾多の變動を経て今日に到つてゐる。主要な市場は勿論英本國市場なのであるが、こゝで今日要求されてゐる所謂 "Baby-beef" 種の肉の生産の爲には、牛がその全生育過程に於て平均のとれた十分な飼料を與へられてゐなければならぬのであるが、濠洲では雨量の關係や人手の不足の爲に此ができないのである。クイーンズランドや北部の廣大な放牧場で、牛は近邊の雜草を食つて生

長して適當な大きになると海岸地帯にある工場に迫はれるのである。かゝる廣大な放牧場の飼養には雨量とは別に多くの困難がある。

ある地方の牧草には礦物質が不足してゐて秣自體が飼料として不適なものである場合が多く、色々な病氣が発生し、これをコントロールするにも牧場が餘りに廣く人手がないので、できないのである。氣候の條件の不良なときには、牧場に於ても、又長距離の海岸への途上に於ても、ロスが非常に多いのである。

猶、この産業にとつて不利なのは主要市場からの距離なのである。此は直接に影響する因子であると同時に罐詰にしなければならないので、間接的にも作用する因子である。アルゼンチンの肉は歐洲へ輸送される場合、唯冷凍さへすれば、目的地で早く使へば、非常に良好な状態の下に到着するのであるが、濠洲のは歐洲市場に向ける場合、固くフリーズしなければならないのであつて、その間、その重量に於ても、又その食用價値に於ても、大きなロスが生じるのである。

四 鑛 業

鑛業の全生産物の價額は農業とか牧農業とかの生産物の總價額より甚しく尠いのであるが(第十三表参照)、濠洲に多くの人口を集中し國家建設の運動を促進したのは金の發見だつたのである。

濠洲の鑛財資源は未開發のものが多いため、埋藏量に就ては決定的な數字をあげる事はできない。こゝには、金、石炭、銅、鉄鐵、鉛、錫等につき概述しておく。(第十四表及第十六表)

第十三表 濠洲全生産推算價值 (1000磅單位)

年 度	農 業	牧 農	酪農・養鶏・蜂	林業及漁業	鑛 業	工 業	計
1933-34	70,731	95,613	40,306	9,605	17,608	123,355	357,218
1934-35	68,587	74,556	44,763	10,856	19,949	137,638	356,349
1935-36	75,388	91,286	47,533	11,424	23,248	155,891	404,770
1936-37	91,403	105,499	49,886	11,765	27,381	170,811	456,745
1937-38	93,229	100,794	57,641	14,755	32,434	188,061	486,914
1938-39	76,851	84,895	60,404	14,634	32,463	195,746	464,993

第十四表 主要鑛產物產出量

年 度	金	黑 炭	銅	銻 鐵	鉛	銀	錫	亞 鉛
1933	830,332 オンス	9,091,976 トン	12,347 トン	336,246 トン	223,479 トン	10,922,594 オンス	2,499 トン	114,684 トン
1934	887,490	9,579,033	9,092	487,259	217,883	11,253,631	2,528	81,592
1935	914,736	10,887,954	12,529	698,493	229,211	11,982,385	3,126	122,359
1936	1,178,581	11,370,409	16,083	783,233	212,038	11,976,090	2,963	145,900
1937	1,381,135	12,074,274	19,789	913,406	240,036	13,778,080	3,099	146,740
1938	1,592,037	11,680,159	20,326	929,676	239,590	13,895,541	3,331	163,381
1939	1,645,697	13,535,206	(b)	1,104,605	(b)	(b)	(b)	(b)
1940	1,643,064	(b)	(b)	(b)	(b)	(b)	(b)	(b)

(b) 數字公示サレズ

濠洲經濟年報

第三卷 一六九 第一號 一六九

第十五表 主要礦物總價額

年 度	ニュー・サウス・ウェルズ	ヴィクトリア	クイーンズランド	南 濠 洲	西 濠 洲	タスマニア	北 部	計
金 (磅)								
1934	307,662	597,040	982,636	58,582	5,534,491	48,139	8,124	7,536,674
1935	439,140	768,401	904,755	64,109	5,677,328	73,143	44,458	7,971,334
1936	525,792	1,018,670	1,048,748	66,593	7,326,309	152,291	76,001	10,214,404
1937	595,855	1,266,507	1,104,760	60,372	8,688,921	176,130	(c) 100,462	11,993,007
1938	780,958	1,273,351	1,334,788	46,922	10,216,349	195,079	(c) 109,168	14,026,615
1939	848,985	1,533,899	1,428,598	38,895	11,796,085	192,596	(c) 163,414	16,002,473
銀 及 鉛 (磅)								
1934	2,199,823	370	671,255		7,199	43,850	11	2,922,508
1935	3,189,388	642	755,899		12,687	63,713		4,022,329
1936	3,820,785	525	899,101	357	14,001	215,449		4,950,218
1937	4,310,613	491	1,172,531	371	27,844	308,262	(c) 328	5,820,440
1938	3,520,465	647	926,614	70	29,477	267,773		4,745,046
1939(d)								
銅 (磅)								
1933	26,775		105,031	2,928	1,132	395,286		531,152
1934	25,398		95,903	8,475		267,342		397,118
1935	30,071		101,489	11,065		464,007		606,632
1936	53,687		161,688	22,609	97	556,784	1,871	796,686
1937	72,406		308,968	21,620	986	759,332	(b) 55	1,163,367
1938	87,905		203,967	15,333	1,275	580,238	(b) 4,362	893,080
1939(c)								

錫 (磅)

1933	218,244	1,350	123,620		4,557	190,041	2,519	540,331
1934	328,130	3,886	179,404		6,765	219,246	9,566	746,997
1935	237,890	14,475	187,234		8,829	258,919	6,036	763,383
1936	268,454	14,750	157,889		6,882	206,656	4,176	658,807
1937	336,628	44,127	202,614		12,421	260,673 (b)	7,205	863,668
1938	286,768	28,650	141,547		7,421	244,037 (b)	3,205	711,628
1939(c)								

石 炭 (黒炭及褐炭)

1933	4,306,779	600,064	693,383		289,806	85,843		5,975,900
1934	4,541,923	479,605	752,303		278,704	81,262		6,133,797
1935	4,887,341	599,697	843,034		318,013	86,204		6,734,289
1936	5,126,850	577,749	853,732		331,565	92,269		6,987,165
1937	5,823,469	497,319	934,107		340,444	66,883		7,662,222
1938	5,603,842	539,822	958,884		375,083	61,991		7,539,622
1939(d)	6,768,659	645,766	1,167,844		362,811	74,460		9,019,540

總 鐵 物

1933	6,964,834	1,060,437	2,373,251	1,076,434	5,269,194	845,668	18,150	17,607,968
1934	7,766,504	1,092,029	2,713,135	1,713,537	5,884,430	750,389	28,806	19,948,830
1935	9,210,820	1,394,253	2,887,440	2,498,617	6,107,990	1,071,507	76,900	23,247,527
1936	10,136,789	1,623,003	3,613,511	2,513,359	7,771,454	1,624,036	98,601	27,980,753
1937	11,981,891	1,832,195	4,392,492	2,509,449	9,230,182	2,282,365 (b)	205,851	32,434,425
1938	10,731,391	1,884,015	3,966,119	2,932,473	10,844,469	1,889,804 (b)	214,724	32,462,995
1939(d)	12,156,000	2,248,000	4,595,000	3,357,000	12,330,000	1,978,000 (b)	246,000	36,910,000

(a) 磅ハ濠洲磅ナリ。 (b) 六月三十日ニ終ル年度。 (c) 十二月ニ終ル年度。 (d) 公示サレズ。

金

作業の容易な鑛區は掘り盡して了つたし、大戰後の高物價の時代には金鑛の開発は不利になつたので濠洲に於ける金の生産量は一九〇三年の三、八三八、〇二九オンスから一九二九年の四二一、一五九オンスに減じて了つたが、この産額は金発見以後の最少のものである。一九三〇年の若干の回復に起因する經濟情勢に照應してやゝ活潑な探鑛が行はれたが、此は又濠洲の通貨の價値下落（即ち、一〇〇英鎊＝二・五濠鎊）からも刺激を得たのであつた。

國外、國內の資本がこの事業に投資され、進歩した地質學的方法や工學の進歩やが應用されて一九三〇年に四六六、五九三オンスだつたものが一九三七年には一、三八一、一三五オンスとなり、その後も増加してゐる。濠洲での金生産量が最大量を示したのは一九〇三年で、西部濠洲もこの年度に最大量に達したのである。他の洲が最大量を示した年度は次の如くである。ニュー・サウス・ウェルス―一八五二年。ヴィクトリヤ―一八五六年。クイーンズランド―一九〇〇年。南濠洲―一八九四年。タスマニヤ―一八九九年。世界生産量に對する濠洲生産量の割合は一八五一―一六〇年度に於ては實に四〇・五五%であつたが、一九二一―三〇年度後は三一四%を占めるに過ぎなくなり、一九三七年には四%を示してゐる。一九三七年の金生産に従事するものゝ人數は三〇、四三四人であつた。

石 炭

各洲に於ける石炭の分布と生産

第十六表 クイーンズランドの石炭産出量

地 區	生産量(磅)
イプスウィチ	546,259
ボウエン	245,309
ダーリング・ダウンス	77,588
メリイボロー	79,229
ロツクハンプタン	69,945
クラモント	63,769
デラゴ(ムリガン島)	18,770
モルガン島	16,072
その他の	3,238

濠洲經濟事情

ニュー・サウス・ウェルス洲が最も重要な鑛區をもち、又このが最もよく開發されてゐる。北部、南部、西部の鑛區が主要なもので夫々ニューカッスル(Newcastle)、ブリ(Bull)、リトガウ(Lithgow)にある。各區の石炭が夫々相異した性質をもつてゐるが、北部のはガス生産、家庭用、及スチーム用に好適であるが、南部及西部のものは全くスチーム用石炭である。現在、北部のグレッターの石炭の層が壯んに開發されてゐるが(特に西部マイトランドとケスノックとの間)、この區域は十五哩の長さ及び濠洲に於て最も重要な炭坑である。

ヴィクトリア洲の黒炭鑛區はこの洲の南部の三つの區域内にあつてワンノン(Wannon)、オトウェイ(Otway)、及び南部ギップスランド(Gippsland)でその廣さは三五〇〇平方哩に達する。南ギップスランドの層は二呎六吋

から六呎の厚さがあり、現在でも開發可能の唯一のものである。

ヴィクトリアに於ける黒炭の全生産量は一九三七年に一七、六四五、〇〇〇トンで、その價額一三、六三二、四〇六豪磅であつた。

ヴィクトリアには褐炭の良質のものが多量にあり、一九三七年の總生産量が三、三九一、四一九トンであつた。一九二四年の十一月に煉炭工場ができ、一九三七年に四一六、五四五トンの生産を見、その質に於てもドイツの工場で生産される最上のもと同じものと云はれる。

クイーンズランドの石炭生産量は第十六表の如し(一九三七年度)。

一九三七年の全生産額は一九二九年以後の最大量であつて、二九年度の一、三六九、〇〇〇トンに比較すると一八パーセントの減になつてゐる。

南オーストラリヤ洲には石炭は出ない。

西部オーストラリヤ 一九三七年の石炭の産出額五五三、五一〇トンで、従事員の數は七二三名であり、一人宛産出量は七六六トンであつた。

タスマニヤ 一九三七年の産出量は九一、一二一トンであつた。前年度より四一、一四三トンの減であつて東部區域の爭議はこの生産量の減に由來してゐるのであつた。

一九三七年の全世界の産出額は一、五一〇百萬トンなので、濠洲のは一五・五百萬トンであるから一パーセントを占める。濠洲の總生産額の一〇%乃至九%は輸出されてゐる。

銅

ニュー・サウス・ウェルスの一九三七年に於ける生産は、電解銅七五〇トン、銅鑛及びコンセントレイトは二、八七七トンに達し、後者は輸出された。殆んど總ての銅はポートケムブラで得られた。一九一九年以後この洲の生産は一、〇〇〇トンを超えた事はない。一九一五年に二、五〇〇トン、一九一一年には一〇、六〇〇トン取れたのである。

クイーンズランド この洲の一九三七年の産出量は五、一四七トンで、その價額は三〇八、九〇八磅であつた。最近年度に於て多少もちなほつて來てゐるのであるが、一九三七年度の産額は一九二〇年度の一六、〇〇〇

トン、價額一、五五二、〇〇〇磅に並べて甚だ多いが、その原因は銅の價格の下落にある。主なる産出區域の産出量は次の如くである。クロンクウリ (Cloncurry) 一、七二〇トン、價額一六三、二〇〇磅。ハーベートン (Herberton) 一四六トン、價額八、七六九磅。マウント・モルガン 一九六二トン、價額一一七、七〇〇磅。

南濠洲 銅の鑛區は南濠洲に多くその全産出額は他の洲の夫より多い。一九三七年の産出量は三四〇トンで、その價額二一、一二〇磅。

西部濠洲 一九三七年に三五トン、價額九八六ポンドがこの洲から輸出された。

タスマニヤ 一九三七年中のタスマニヤに産出された銅の量は一二、四二〇トンで、價額七五九、三三二磅であつた。

北部 この洲でも銅はあちこちで發見されたが、鑛區の開發は銅の價格の値下りと輸送の困難に妨げられて進歩を見ない。

一九三七年の銅の世界總生産額は二、三〇〇、〇〇〇トンに達し、北米合衆國の此に對する割合は三分の一で濠洲の其は一パーセントより多い。濠洲に於ける銅の鑛山に働く労働者數は二、一三〇名であつた。

鐵

ニュー・サウス・ウェルスの鐵鑛の産出量は一九三五年に四、五八〇トンに達し、その價額一八、三二〇磅であつた。一九二九年以後この洲の鐵鑛が洗鐵の生産用に使用された最初の事であつた。南濠洲が長い間これを供給する唯一の洲だつたのである。

南濠洲 アイアン・クノツプ (Iron Knob) 及 ミッデルバンク (Middelbank) に於けるブローケン・ヒル會社の鑛區の產出量は一九三六年に最大量を示し、一、八八七、二九八トンの鐵鑛を產出し、この價額は二、一七〇、三九二磅であつた。一九三七年の產出量は一、八六六、四一四トンで先行年度より少かつた。鐵及鋼鐵生産に於ける經濟回復の程度は一九三一年度の產出量の二八九、一七九トンとの比較から了解される。

西部濠洲 ヤンピ (Yampi)、サウンド (Sound) の鑛區で開發作業が進行中であるがまだ生産の段階に達してゐない。

タスマニヤ 一九三七年中の鐵鑛生産量は六一トンを、これは我が國に輸入されたが、一九〇八年以後始めての產出であつた。黃鐵鑛も產出され、これはマウント (Mount) リェル (Lyell) に於ける銅鑛のフロテイションの副産物として產出されたもので一九三七年に四〇、六三〇トンに達したが、濠洲に送られ化學肥料生産に從來輸入燐鑛が使用されてゐたのを代位したのであつた。

濠洲の鐵及鋼鐵の生産量は現在世界生産額の裡にあつて極めて僅かの比率を示すにすぎない。即ち、銑鐵の世界生産額は一九三七年度に於て九二、八四八、〇〇〇トンであつたが、濠洲の夫は六六五トンであり、鋼鐵は一三五、三二七、〇〇〇トンで、濠洲の夫は八三〇トンにすぎなかつた。

與へられた紙數もつきのので、この他の鑛物即ち、銀、鉛、錫、亞鉛その他に就ては統計を示す(第十五表及第十七、十八表)だけに止めなければならぬ。以下第二次世界大戰開始後の濠洲經濟の變貌に就て簡単に記述して擧筆する事とする。

第十七表 生產工業——生產物價值 (磅)

工業ノ種別	1935—36	1936—37	1937—38	1938—39
非金屬礦物處理及採石品	3,826,059	4,179,584	4,850,039	5,146,151
煉瓦, 陶器, 硝子, 其他	4,163,879	4,684,428	5,437,312	5,571,757
化學製品, 染料, 爆發物 塗料, 油及脂	9,764,706	11,312,766	11,909,939	12,456,370
工業金屬, 機械器具及運 搬具	45,302,857	52,744,592	60,143,682	62,474,973
貴金屬, 寶石, 延金	793,149	857,761	956,652	931,085
紡績及紡績製品	9,594,475	9,828,156	10,262,066	10,917,765
獸皮及皮革	3,594,796	3,117,433	3,001,056	3,182,881
被服	14,014,913	14,625,535	15,867,392	16,551,031
食物飲物及煙草	34,542,024	36,225,703	40,393,914	41,601,107
木細工及バスケット	7,494,826	8,374,617	9,312,921	9,460,742
家具, ベット, 其他	3,519,107	3,815,257	4,270,599	4,200,035
紙, 文房具, 印刷, 製本	12,017,821	12,794,742	14,188,137	14,559,073
ゴム	2,350,312	2,303,302	2,461,962	2,761,075
樂器	132,473	137,594	144,403	136,432
雜貨	1,865,749	1,917,630	2,180,438	2,097,998
熱, 照明, 動力	9,987,217	10,763,145	11,107,512	11,408,135
計	162,437,363	177,684,645	196,488,024	203,416,610

第十八表 製 造 工 場

年 度	工 場 數	勞 働 者 數	月 給 及 賃 金	工場機械士 地建物(磅)	使用サレタル 材 料 ノ 價 値 (磅)	生 産 價 格 (磅)	生産物價值 (磅)
1933—34	23,297	405,909	64,444,660	227,745,934	189,827,264	129,091,915	330,134,060
1934—35	24,211	449,598	72,824,549	232,845,393	209,047,017	143,816,160	365,201,384
1935—36	24,894	492,771	82,098,288	239,840,993	238,974,797	162,437,363	414,688,455
1936—37	25,668	523,948	90,123,132	246,203,232	260,578,903	177,684,645	451,829,278
1937—38	26,395	559,160	102,078,550	257,998,600	287,243,412	196,488,024	498,779,141
1938—39	26,941	565,106	106,743,062	274,582,541	281,303,446	203,416,610	500,419,977

製 造 工 業 —— 各 洲 別

	ニュー・サウス ス・ウェルス	ダイクトリヤ	クイーン ランド	南 濠 洲	西 濠 洲	タスマニヤ	計
--	-------------------	--------	-------------	-------	-------	-------	---

1937 — 38

1) 工 場 數	9,097	9,241	3,063	1,980	2,066	948	26,395
2) 勞 働 者 數	224,861	201,793	52,119	44,084	23,133	13,170	559,160
3) 賃 銀(磅)	42,209,875	34,960,911	10,170,800	8,043,160	4,401,443	2,292,361	102,078,550
4) 使用燃料價額 //	7,123,961	4,032,190	1,440,750	949,858	1,095,225	405,721	15,047,705
5) 材 料 //	122,591,463	88,129,145	39,595,695	21,469,924	9,986,441	5,470,744	287,243,412

6) 生産過程ニ生シタル價值	85,168,133	64,889,390	18,602,958	13,820,155	8,562,294	5,445,094	196,488,024
7) 工場生産物價值	214,883,557	157,050,725	59,639,403	36,239,937	19,643,960	11,321,559	498,779,141
8) 土地及建物工場	54,471,643	40,339,541	11,982,620	8,379,334	6,471,367	2,989,509	124,934,014
9) プラント及機械	57,222,693	36,868,289	17,734,600	9,402,792	7,459,525	4,676,687	133,364,586

1938 — 39

1) 工場數	9,464	9,250	3,087	2,067	2,129	944	26,941
2) 労働者數	228,781	201,831	54,110	43,371	23,211	13,802	565,106
3) 賃銀(磅)	44,606,497	36,026,542	10,887,229	8,169,350	4,573,558	2,479,886	106,743,062
4) 使用燃料價額	7,651,627	3,999,934	1,423,549	1,017,537	1,169,268	438,006	15,699,921
5) 材料	120,501,795	82,971,608	42,596,049	20,308,797	9,603,657	5,321,540	281,303,446
6) 生産過程ニ生シタル價值	90,265,891	65,996,069	19,301,475	13,678,930	8,775,586	5,398,659	203,416,610
7) 工場生産物價值	218,419,313	152,967,611	63,321,073	35,005,264	19,548,511	11,158,205	500,419,977
8) 土地及建物工場	57,353,625	42,026,245	12,299,089	8,710,700	6,813,653	3,717,102	130,920,414
9) プラント及機械	62,692,956	38,626,743	18,095,415	9,749,679	8,095,064	6,402,270	143,662,127

1939 — 40 (推算)

労働者數	236,300	212,441					585,470
賃銀(磅)	47,682,551	39,575,809					114,959,000
生産過程ニ生シタル價值	96,397,077	74,028,431					219,600,000
工場生産物價值	239,323,065	174,304,401					550,600,000

總 要 要 點 要 點

第二卷 一七九 第一號 一七九

五 第二次世界大戰下の濠洲の經濟

財 政

戰爭の衝擊は濠洲の國家豫算面にも現はれた。特にフランスの没落以後は明瞭となつた。

一九三七—三八

九〇、五一二、〇〇〇磅

一九三八—三九

九八、〇三一、〇〇〇磅

一九四〇—四一

二七〇、八五三、〇〇〇磅

一九三九年の九月以降はその國防を戰時體制化したのであつたが、右豫算のうちの國防支出は次の如くに増加した。

一九三七—三八

五、九四八、五九五磅

一九三八—三九

八、八五四、五二三磅

一九三九—四〇

五五、一一四、五一〇磅

一九四〇—四一

一八六、〇〇〇、〇〇〇磅

最後の數字は推算であるが、ある報告によれば二億磅をとえたと傳へられる。歳出と歳入との開きは大きくなる許りで、一九三九年—四〇年の赤字は三一、三五四、七八九磅、一九四〇—四一年は一一九、七三〇、八一五磅となつた。一九三九年十二月には銀行團より政府は一二、〇〇〇、〇〇〇磅借受け、一方、一九四〇年三月に

は一八、〇〇〇、〇〇〇磅の公債を發行し、同五月に二〇、〇〇〇、〇〇〇磅の公債を發行した。一方戰時貯蓄債券一五、〇〇〇、〇〇〇磅、又無利子公債五、一〇〇、〇〇〇を起債した。

第一次産業

戰爭勃發と共に英本國は羊毛、バター、チーズ、罐詰果實、乾燥果實、肉、砂糖、銅、亜鉛、タングステン、タングステン鑛等の輸出可能量を全部買上げたので、濠洲の第一次産業に於ける危機はさけられたのである。小麦の餘剰の脅威は英國の購入——小麦は八六、〇〇〇、〇〇〇ブッシェル、小麦粉は一二〇、〇〇〇トン——と一九四〇年末の早魃によつてさける事ができた。一九四〇年の末には濠洲の小麥局は一九三九—四〇年の收穫一九五、七五〇、〇〇〇ブッシェルのうち、二五、二〇〇、〇〇〇ブッシェルを残し、殘餘のものを總て賣つて了つた。一九四〇—四一年の收穫は八二、四〇〇、〇〇〇ブッシェルと推定され、そのうち六二、〇〇〇、〇〇〇ブッシェルは小麥局に供出される事となり、僅かに二二、五〇〇、〇〇〇ブッシェルだけが一九四一年度の輸出可能量とされてゐる。最近船舶不足のため大量貨物や易損品貨物は輸送に優先を與へられなくなり、果實、罐詰果實、葡萄酒等の輸出は激減した。

工業生産

爲替取組の困難、船舶の減少等の爲、輸入の杜絶乃至減少となり、一方一九四〇年の春以後、英國は自國の國防充實に執掌して他を省る邊なく、濠洲は、そこで、自國の軍備ばかりでなく、ニュージーランド、印度、その他英領地にまで、鐵兜とかその他の軍需品を送らなければならなくなり、戰爭開始後は、飛行機のフレーム、エンジン

デン、プロペラ、ブレン銃、高射砲、等々を製造するものをも含む幾多の工場が設立されるに到つたのである。一九四一年六月に直接の軍需品工場に働く労働者数は一五萬人を突發すると云はれる。西部ニュー・サウス・ウェルスに於ける石炭、鐵の鑛床及び南濠洲の Whyalla に近き鐵鑛床に集中されてゐる鐵及鋼鐵産業は過去十年のうちに巨大な進歩を見、現在の鋼鐵の生産量は百萬トンを超え、工場數も増加した。一回三機の割合で練習飛行機がつくられ、一九四一年の夏からは Bristol Beaufort 型の爆撃機四〇〇臺が生産されると報じられた。ブレン銃の生産は一九四一年の一月に開始されたと傳へられた。工業生産の監督は軍需省の行ふ所で、この長官は濠洲での最大の會社ブローケン・ヒルの理事たりし Essington Lewis 氏である。

濠洲の軍需工業の進歩を阻害する因子は一に止まらないが、就中、原料品の不足及工作機械及熟練労働者の不足は最大の難點となつてゐる。一千萬磅を投じて政府は濠洲にない軍需原料品をストックして來たのであるが、ヂュート、綿、ゴム、ブリキ、工業用化學製品、染料、等につき六ヶ月乃至一ヶ年分のストックをして來たのである。工作機械の問題は最も困難であつて、此はドイツからは全く來なくなり、英國及米國の分も減少し、濠洲は自國生産品に依據せざるを得なくなり、一九四一年二月に三百萬磅を投じ三〇の自國の工場に四千の工作機械の注文を發してゐる。

軍需工業に於ける労働力の不足をおぎなふ爲に、政府及洲政府は労働組合と協力して講習を開始してゐる。一九四〇年六月には五六五千人の工場労働者が記録されたが、此は濠洲としてはレコードである。

ドル及びギルダールの手持を保持する爲、一九三九年十二月一日に濠洲政府はポンド・ブロック以外からの輸入

を嚴禁し、他からの輸入は許可制にし、多くの品物は輸入を完全に禁止し、ある物品に就ては戦前の輸入量の一定比率内に限定したのであつたが、一九四〇年四月にはこの規定は一層擴大された。然るにもかゝらず輸入は減ぜず、輸入品は戦争に不可避的なものに移行し、軍需原料品、飛行機、その部分品、その他の軍需品になつたのである。一九四〇年の最初の九ヶ月に於ては北米合衆國の輸出は五七、一二九、〇〇〇弗にのぼつたが、一九三九年度の同期に於ては四三、七八〇、〇〇〇弗であつた。

第十九表 濠洲外國貿易（英千磅）

	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年（推算）
輸 入	九二、六四〇	一一三、九七五	一〇二、一五六	一一五、七〇五
輸 出	一二九、六六五	一二五、八三八	一二二、二〇一	一二六、二三九
輸出超過	三七、〇二四	一一、八六三	一〇、〇四五	五三三

戦争は濠洲經濟に根本的な問題をなげかけてゐる。農牧業生産品の輸出の問題と外債支拂の問題である。兩者とも英本國及歐米諸國にその主要なる市場を見出してゐた從來の經濟政策が、事態の推移とともに矛盾と化したと見る可きであらう。かゝる矛盾が如何にして克服さる可きやは當面のトピックとして興味ある又重大なる課題であらうが、此は纏らなく小論の論外において擱筆する。（終）